

## 北里大学保健衛生専門学院 臨床検査技師養成科

鈴木 英明\*

## I. 本法人および本学院の沿革

1892年、破傷風菌純培養法の確立と血清療法を発見し、ドイツのコッホ研究所から帰国した北里柴三郎博士は、ツツガムシ病調査のため新潟に向かい、ツツガムシ病が細菌とは違う微小な微生物による感染症であることを明らかにし、濃厚石灰水の散布や虫除けを励行するよう喚起し予防しました。同年11月に伝染病研究所を開設すると、新潟で成果を上げたこのツツガムシ病の研究は「伝染病研究所一覽」の筆頭に掲げる業績となり、北里博士が「医の基本は予防にあり」として手がけた最初の事案となりました。その後、1914年に北里研究所を創立し、その伝統を受け継ぎ学校法人北里研究所は各種疾病の原因究明と予防・治療医学の研究に取り組んでいます。

1958年に日本で最初の臨床検査技師養成校である北里衛生科学専門学院(東京都港区白金)、1962年に北里大学(神奈川県相模市)、1967年に北里学園衛生科学専門学院(青森県十和田市)を創立後、1982年に越後三山八海山の麓に本学院の基盤となる北里大学附属北里保健衛生学院を開設しました。本学開設当時は臨床検査技師養成科(入学定数80名)のみでしたが、1994年、学校名を北里大学保健衛生専門学院と名称変更し、現在は統合カリキュラムを取り入れた保健看護科(入学定数80名)、管理栄養士国家試験受験資格が得られる管理栄養科(入学定数80名)および1年課程の臨床工学専攻科(入学定数30名)も加わり、約900名の在校生が勉学に勤んでいます。これまでに北里博士の終始一貫の情熱を引き継いだ4,500名を超える卒業生を輩出し医療社会に貢献してきました(写真1)。

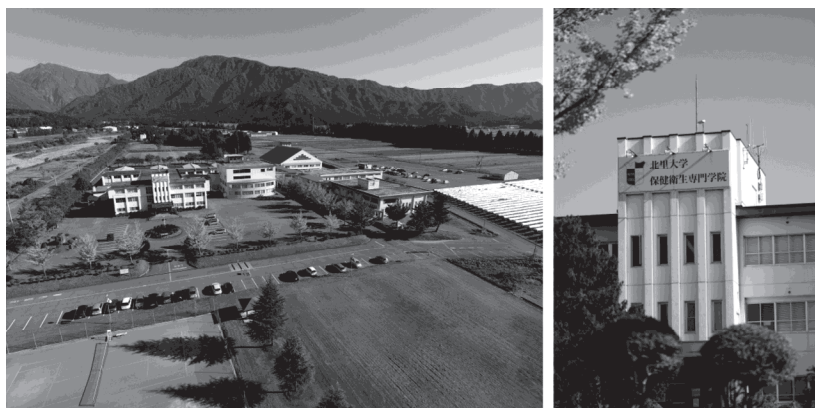


写真1 北里大学保健衛生専門学院全景

\*臨床検査技師養成科 hideaki@kitasato-u.ac.jp

## II. 臨床検査技師養成科の教育理念および

### 教育目的

本学院臨床検査技師養成科は、北里博士の学統を受け継ぎ、博士が具現化する「開拓・報恩・叡智と実践・不撓不屈」の精神を理念としています(写真2)。3年制医療系専門課程として、医学検査において基礎的知識と技術が備わった人材育成を目指すために次のような教育理念および教育目標を基盤として教育に臨んでいます。

#### 1. 教育理念

医学検査を实践できる十分な基礎的知識と技術を修得し、各種現場での高度な内容に対応できる能力を養うとともに、医療人の一員としての人格、倫理感、使命感を持ち、他の医療職種の人たちとチームを組み活躍できる人材を養成する。

#### 2. 教育目的

臨床検査技師養成所指定規則に準じ定められた臨床検査技師として必要な知識、技術を教授するとともに、建学の精神「叡智と実践」に沿い、豊かな教養と優れた人格を備えた有能な臨床検査技



写真2 北里大学保健衛生専門学院の教育理念

師を養成する。

## III. 特色と実績

教育理念と目的を基礎とした教育を達成するための手段として様々な教育プログラムに取り組んでいます。その中でも本学院の特色あるプログラムを紹介します。

#### 1. チーム医療教育

北里大学医学部、薬学部、医療衛生学部、看護学部および北里大学看護専門学校の学生らとともに、2005年からチーム医療教育プログラムを実施しています。医療上の問題を解決し患者を中心とした質の高い安全な医療を提供できる人材育成に挑んでいます。他職種の知識・技術について学生たちの理解を促し、他の医療従事者との連携・協働できる能力や患者を総合的に診る能力を習得します。ほとんどの医療従事者を養成している学校法人北里研究所ならではの教育プログラムです。

#### 2. コミュニケーション能力の育成

接遇能力は医療従事者にとって重要です。1年次から人間関係論を学び、コミュニケーション力高める演習を実施しています。さらに、学生は来校者が訪問すると「おはようございます」とコミュニケーションの基本である挨拶をしてくれます。教職員が率先して学生に挨拶することで、学生自身自ら挨拶を心掛ける習慣がついています。

また、近隣の通所リハビリテーションの方々にご尽力いただき、学生が主催し計画実行する施設訪問を通して、医療従事者として介助等の演習、および異世代交流のコミュニケーション能力を育成しています(写真3)。



写真3 コミュニケーション能力の育成を目的とした施設訪問

### 3. 実践的な教育

自動分析機器の取り扱いを取り入れた実習や近隣病院の協力を得て医療現場で活躍し実績のある臨床検査技師が直接学生の指導に関わっていただいています。学生にとっては臨場感あふれる臨床現場に活用できる知識と技術を身につけられる貴重な経験となっています(写真4)。さらに、臨床検査技師志願の意識向上と維持にもつながり、就職活動や国家試験合格への動機づけにもなります。

1年次には北里大学メディカルセンター病院で施設見学をしています。検査室のみならず病院全体を見学することで、病院の成り立ちから臨床検査技師の役割までを実際に目で見て確かめます。机上の文字を具現化できる良い機会となっています。

また、4ヵ月間の長期にわたる学外(病院)での臨地実習を行っています。実際に医療の現場で、学内で学んだ知識・技術がどのように実践されているか、病院の組織・機能について理解する実践的な機会となっています。

### 4. 学習の質の向上

推薦入学などの早期に入学を決めた入学予定者に対して入学前教育を実施し、学力低下防止と継続的な学習力の確保に努めています。入学後も数学、生物および化学の基礎科目に対してリメディアル教育を実施しています。学習面で不安を感じる学生もいることから入学時から担任による学習面談を実施し助言することで、早期の学習対策を実施しています。また、1年前期に学習に対する

意識付けとして、普段の学習状況に関する反省と改善について討論するグループワークに取り組んでいます。さらに講義・実習においては積極的にe-ラーニングなどのアクティブラーニングを取り入れています。

### 5. 資格取得による学習意欲の向上、付加価値の付与

学生が医療に必要な知識を得て学生自ら付加価値を付随し、資格取得の成功体験が国家試験勉強への意欲向上に繋げています。本学科では毒物劇物取扱者と健康食品管理士の資格取得のための特別講義を実施しています。

### 6. 国家試験合格率向上への取組み

全員の合格を目指し、模擬試験による学習到達度の把握と個別指導、グループ学習による学生間の協力意識を育むことで国家試験合格へ導く学習を施しています。また、成績が低迷している学生には別のクラスを設け、国家試験対策講義を実施し学力向上を目指しています。

### 7. 希望進路の決定率の向上

本学院には1年課程の臨床工学専攻科があります。そこで、学生の進路は就職、臨床工学専攻科進学および大学への編入学の3つに分けて指導しています。各進路に進んだ卒業生の講話や就職活動のノウハウを盛り込んだ内容の就職ガイダンスを通して業種情報の提示や自己研究する場を与えています(写真5)。学生が自身の将来像を思い描きながら目標を定め、希望する進路へ進めるようサポートしています。



写真4 実践的な教育を目的とした実習



写真5 就職支援の一環としての企業説明会

### おわりに

本学院は東京駅から上越新幹線で1時間半、長いトンネルを抜けた先の浦佐駅にあります。近隣には奥只見レクリエーション都市公園「八色の森」や小泉八雲を展示している池田記念美術館、葡萄畑も併設する越後ワイナリーがあり、多くの観光客や家族連れで賑わっています。のどかな地域にある中、学生の福利厚生施設は充実し、学生用駐車場、体育館、学生食堂、テニスコートや芝

生のグラウンド、隣接する清流・水無川の河川敷ではBBQ施設もあります。上流では川遊び、イワナ・ヤマメの釣りを楽しみ自然を相手にしたアクティブプレイを存分に体験できます。四季の息吹を体感できる活きた自然の中で学んだ学生は、季節を彩る花々のように感性豊かに心身ともに成長していきます。白金の北里衛生科学専門学院や十和田の北里学園衛生科学専門学院の伝統を引き継ぎ、今後も浦佐の力強い自然のような臨床検査技師を育成していく所存です。